

デザイン研究

住いのための室内用具

設計シリーズⅣ

楠 畑 裕 也

〔目 的〕

近來社会全般の変遷にともない組織的、計画的に人間活動を中心に、新しい生活の場が造られつつある。そこで従来の家具のパターンにこだわらず、その用途性を追求することによって、これからの住いに適応する室内用具をデザインする。

〔概 要〕

上記の主旨は42年度よりはじめられているが、今年度はそのシリーズⅣとして育児用品である幼児用収納遊具を設計試作した。

発表：試作品は第18回全国試験所作品展（於東京）並びに 第17回当場展（於鹿児島市山形屋デパート）にて発表した。

壁面利用棚付折畳みベットの研究（継続）

鮫 島 正 登 美

〔目 的〕

前年より継続の（一般家具類の意匠改善および開発設計研究）の一環として、上記のものを設計したが、今回は、学生または独身青年の個室を対象とした。

〔概 要〕

青年の生活必需品としては、衣服は勿論、読書勉強のための書籍や筆記用具、飲食のための用具、照明器具、睡眠のための夜具等数多くのものがある。現在の若者は、日本古来のタタミの匕での生活より、自分の個室として、洋風化した部屋をこのむ様になってきている。

今回の折畳みベットは、この個室を有効に利用するためのもので、ベットについては、保温性、通気性、清潔性、弾力性、耐久性、可動性等いろいろ言われているが室内の他の用具との調和、他の必需品との併用、異動による寝室以外の利用等を考慮して設計を行った。現在、折畳みベットに類する物が種々市販されているが、木製の物はスチール製品におされている様に思える。

市場で見る木製の物は、折畳んだ場合の脚の外見デザインにあまり良い処理と思われる物に遭遇していない、1、2特許または意匠登録をした物の中に見ることはあったが、少なくとも今後の木製折畳みベ

ットはスチール製品に無い良さをもった高級な物とすべきで、今回はこれらを考慮に入れ、外見デザインの問題点の解消もねらった。

◎ 製品は総てに落ち着いた雰囲気ができるよう、クラシックな要素をもたし、折畳んだ場合、服吊タンス同様の外見スタイルになるようにした。

- 1) タンス天板部分がベットの後脚となり、タンス脚部分ベット前脚となる。
- 2) タンス開戸鏡板部分はベット裏となる。またタンスは横開きが普通だが、上を引き開きベットとする。
- 3) 蝶番の付く下を65mm厚とし上の部分を300mm厚とする。つまり横から見ると厚みが上の方に約8度の勾配がある。こうすることでベットとした場合300mmの高さができる。又ベットとして使用しない（たたんだ時）場合、自然に倒れないよう考慮した。
- 4) 内部にはハンガー吊2個、小棚、ヘッドランプ等を取付ける。

初回の試作ではあったが、今回の問題点とした脚の点は一応解消し、好評を得たが、今後の問題としてベットの折畳み、開き等に多少の力を要するので、ベット部分のフラッシュ芯材を発泡樹脂利用、又は同等以上の軽量材を使用すべきである。